

## 第2章 吉田構内教育学部附属教育実践研究指導センター 新営に伴う発掘調査

### 1 調査の経過

調査地区は教育学部研究実習棟の北東部にあり、構内地区割ではK-18南東隅に当る。今回、教育学部附属教育実践研究指導センター（以下、実践センターと略称）が新営されることを受けた資料館では、この地区が以前より、弥生土器・土師器等の遺物散布地点として知られていたことを考慮した上、遺構・遺物の埋存状況、土層の堆積状況を把握する目的をもって実施した。

調査期間は昭和62年6月22日から8月11日までで、調査面積は約240㎡である。実践センター新営の件は昭和61年度からの案件であったが、62年度に入って急拠具体的となった経緯をもつ。試掘調査の後、改めて調査方法の検討を行なう予定をたてたが、期間が切迫していたこともあり、調査面積を考慮して全面調査に切替えた。なお、梅雨の時期に当たった為、調査期間が延びたことを付け加えておく。

調査区内においては、既設配管の為、見かけ上A・B・Cの三区に分かれた（Fig. 7）。A区では約1/2が現代の共同溝敷設工事の際にすでに攪乱を受けており、実際の調査面積は新営予定地全体の約1/3となった。調査方法は、第1層である埋め土を重機によって除去したのち、2層以下は手掘りによる分層発掘をおこなった。その結果、弥生～古墳時代にかけての土壙・柱穴、近世以降の土壙・溝、それに近・現代の暗渠5条が検出されたが、顕著な遺物は見られなかった。なお、第3層については遺物包含層であることが判明し、4個所のグリッドを設けて掘削したところ、縄文時代の所産と考えられる土器片・石器類が出土した。また、自然木、木の実等が見られ、縄文時代を含めそれ以前の自然環境を知るうえで貴重な発見となった。

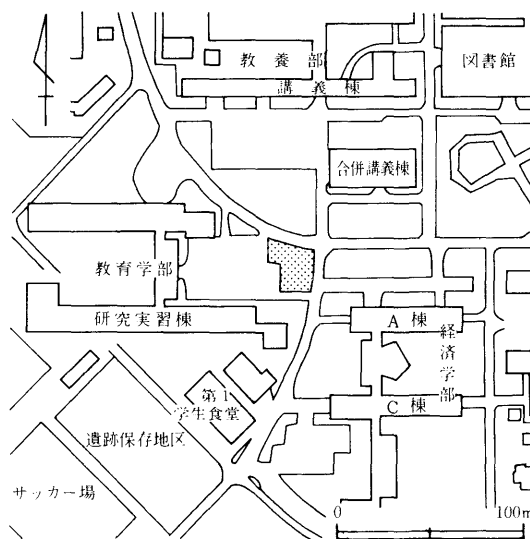
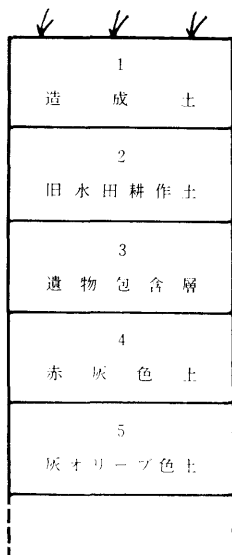


Fig. 4 調査区位置図

## 2 層 位

調査前の地表面はほぼ水平で、標高18.85mを計る。遺構を検出し得る層までには造成土、旧水田耕作土がある。造成土は本学統合移転時の埋め土で、C区、A区の西部において40～60cmで、厚い。旧水田耕作土は灰黄色を呈する近世以降の水田耕作土で、C区、A区の西部において厚い。以下、第3層目として、粘性を帯びた浅黄色土が堆積し、この上面で弥生～古墳時代、近世以降の遺構を検出した。本層は縄文時代の遺物包含層である。第4層として赤灰色粘質土、第5層として灰オリーブ粘質土と続く。第4層以下においては遺構・遺物の発見はない。第3層は2～3つに細分可能な状況にあり、下部に向かい小礫を多く含み、粘性も強くなる。この状況を合わせて旧地形の復元を試みると、A区南側では、削平の度合いから凸部であった可能性も高く、逆にA区中央付近では第3層上部に灰色土の堆積があり、ここが落ち込んでいたことを推測させる。微妙な凹凸が存在したことは、遺構の残り具合からも求められる。元来、希薄である可能性も否定出来ないが、ここでは、削平によるものと思われる。当調査区内においては、微高地あるいは谷部といった旧地形の起伏を考え得るが、これは決して平面的な広がりを持つものではなく、垂直的に幅を持った起伏の存在が浮かび上がる。

基本層序の各土質は次のとおりである。



第1層 埋め土 20～60cm

第2層 灰黄色土 よくひきしまる。構成粒子は細かいが、不純物を多く含む。旧耕作土。5～35cm。

第3層 浅黄色土 砂質である。不純物はほとんど含まない。5～30cm。遺物包含層。

第4層 赤灰色土 硬くひきしまる。0.2～0.5cm程度の小礫を多く含む。5～30cm以上。

第5層 灰オリーブ色土 粘性が強く、0.3cm程度の小礫・炭を多く含む。5～30cm。

第5層以下は未掘である。

基本層序としてこれらの5層を確認しておきたい。ただ、Fig. 6に示したように、接近した地点でも堆積の在り方は微妙に違っており、無理に比定することは避けた。

Fig. 5 基本土層柱状図

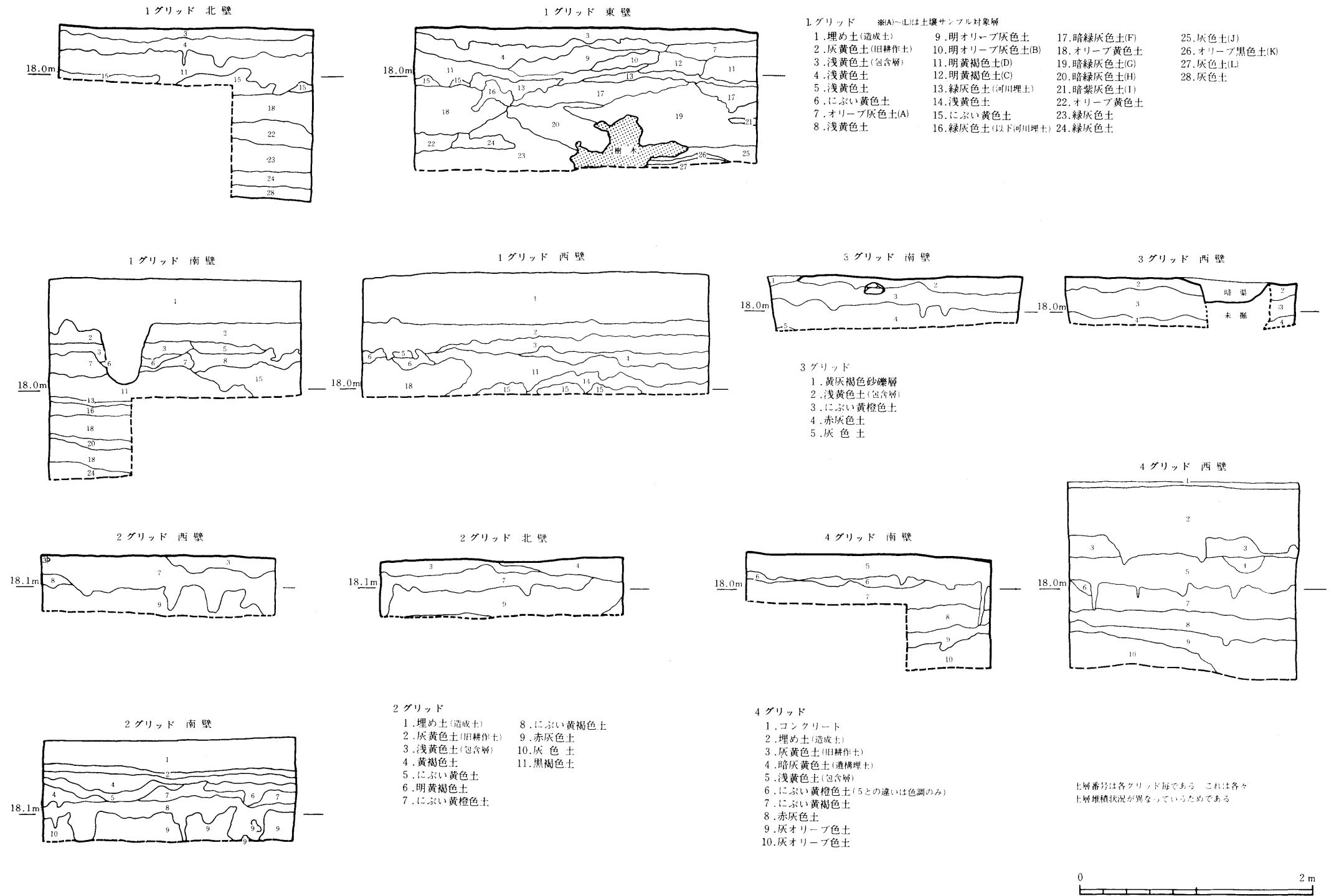


Fig. 6 土層断面図

### 3 遺構・遺物

#### (1) 弥生～古墳時代、江戸時代以降の遺構・遺物

検出した遺構には、土壇・溝・柱穴がある。弥生～古墳時代のものはA区の西部・東部、C区の東側に、江戸時代以降のものは、C区の北東部と南西部に偏ってみられた。

**土壇** A区においてのみ3基検出した。

#### 第1号土壇 SK 1 (Fig. 8)

A区の西部、構内座標  $x = 304$ ,  $y = 498$  付近で検出された不整楕円形のもので、北東～南西方向に長軸を持つと考える。南東部は溝（あんきよ暗渠2）によって切られており、最低、長軸で1.4m、短軸では0.8mの規模を持つ。深さは検出面より11cmを最深部として平均6cm程で浅い。壇底は最深部で標高18.14m。中央部がやや窪む。内部からの出土遺物はない

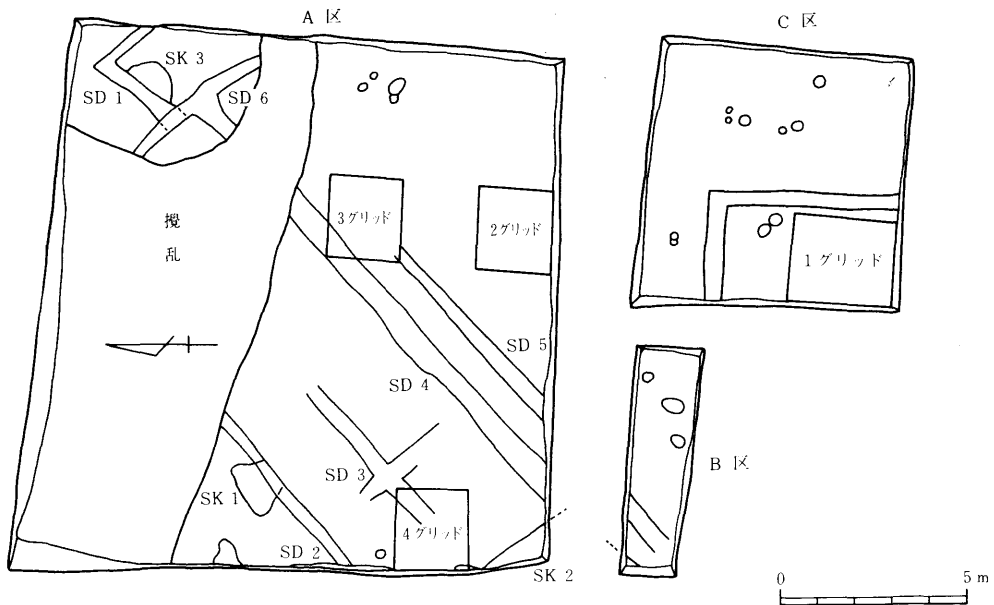


Fig. 7 遺構配置・グリッド設定図

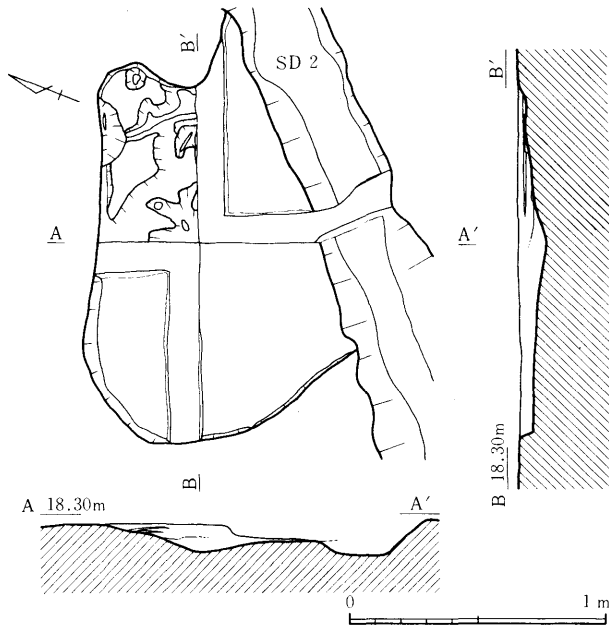


Fig. 8 第1号土坑実測図

が、埋土の状況等から弥生～古墳時代にかけてのものと考えられる。

第2号土坑 SK 2 (Fig. 9)

A区の南西隅、B区の西隅において検出した。構内座標  $x = 295$ ,  $y = 496$  付近のもので、方形を呈すると思われる。一辺は少なくとも2.5mはあると考えられる。坑底は平で、その標高は18.23mを計る。検出面からの深さは17cm程である。出土遺物はないが、埋土等から江戸時代以降のものと考えられる。

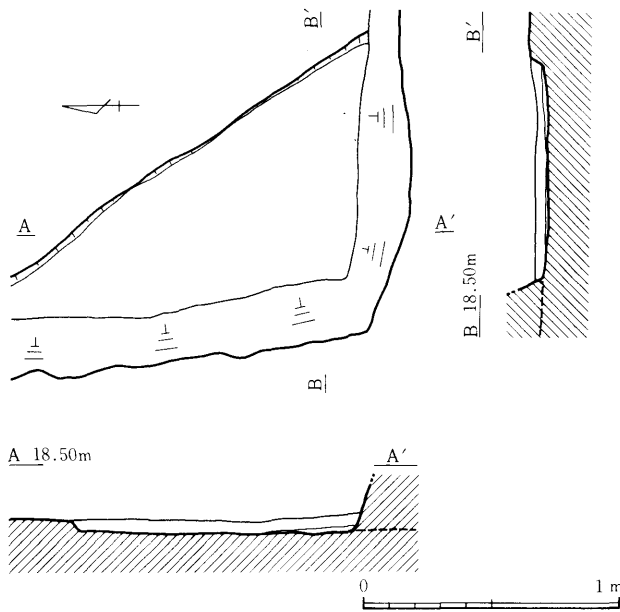


Fig. 9 第2号土坑実測図

第3号土坑 SK 3 (Fig.10)

A区北東隅、構内座標  $x = 306$ ,  $y = 509$  付近で検出された、不整楕円形のもので、やや北東-南西方向に幅が広いようである。これを長軸とみると1.5m、短軸0.6mの規模を持つことになる。坑底は平で、検出面からの深さは約20cmである。出土遺物はないが埋土の状況等からSK 2同様、江戸時代以降の所産と考えられる。なお、溝1との切り合いは明確にし得なかった。

**溝** A区においてのみ6条検出した。

溝 SD 1

土壙SK 3に隣接するもので、A区の北東隅ではほぼ直角に曲がる部分を検出した。既述のとおり、土壙SK 3との切り合いは不明である。また、南西側は溝（暗渠5）によって切られている。幅は約40cm、断面形は逆台形状を呈する。溝底にはかなりの凹凸があり、検出面からの深さは最深部で約55cm程ある。出土遺物はなかったが、埋土の状況等から江戸時代以降の所産と考えられる。

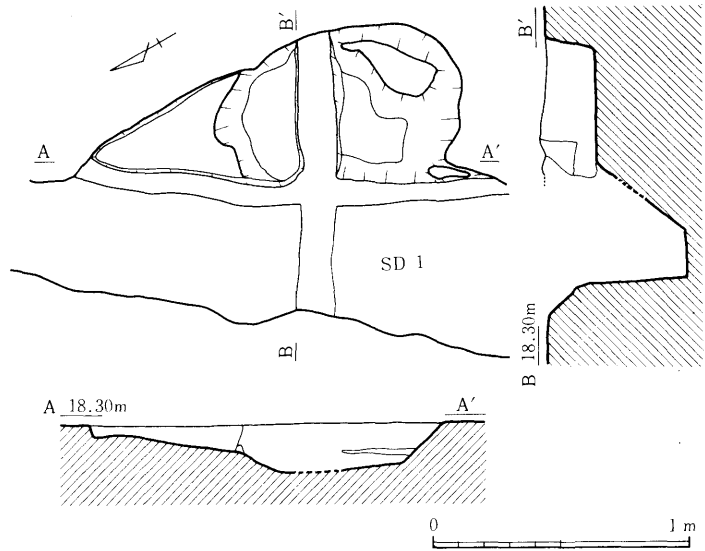


Fig. 10 第3号土壙実測図

溝 SD 2～SD 6

ほかに、溝5条が検出されている。これらはすべて近世以降の水田耕作に伴う排水用施設（暗渠）である。ほとんどが北東－南東方向に流路をもっているが、一部これと直交するものもある。検出面からの深さでは多くが10～15cm前後であるが、場所によってはかなり異なる。幅は40cm程度のもが多い。出土遺物（Fig. 15, PL. 5）について、SD 2では、土師質土器の甕・須恵器の坏蓋・瓦質土器・磁器・瓦が出土している。SD 4からは、須恵器・瓦質土器・陶器・磁器・管玉の未製品と考えられるものが出土した。このうち18は表・裏両面に施釉し、貫入がみられる陶器の破片である。外面にはヘラによる2条の沈線とスタンプによる菊花文を施している。1の管玉の未製品と考えられるものは、一部を欠損し縦方向に擦痕（磨き痕）が見られる滑石製のものである。SD 6からは弥生土器・磁器が出土している。なお、当調査における遺構出土の遺物は、これら近・現代の暗渠からのみで、すべて細片である。

**柱穴** A・C区において22穴検出した。

埋土の状況等から、弥生～古墳時代の所産と考え得るものを14検出した。A区の中央部東端とC区の中央やや東寄りに集中しており、直径10～40cmのものである。検出面からの深さは3～15cmであり、10cm前後のものが多い。外に、近・現代の所産と考えられるものを8つ検出した。

(2) 縄文時代の遺構・遺物

弥生時代以降の調査を完了した時点で、第3層上面に多くの炭が入っていることを確認した。これらが人為的なものか自然的なものか、また、下層にも続くのか、ということに注意を払い、炭が集中して見られた部分に、4個所のグリッド設けて掘削を行なった。その結果、第3層の上部で縄文土器片、縄文時代のものと考えられる石器類が出土し、炭に関しては、人為的である可能性が大きくなった。しかし、遺構は全く検出されなかった。

以下、各 Grid の説明を行なうことにする。出土遺物については後に一括して述べたい。

1 Grid (C区)

C区西壁に沿って設けた南北2.5×東西2mのグリッドであるが、すぐに北東隅で大形剥片の出土を見たため、この時点でグリッドを北へ50cm拡張した。実際の掘削は南北3×東西2mである。掘削方法は、移植ゴテ・手鋤によって、5cm程度づつ全面同一レベルで掘り進めていった。第3層上面より約30cmまでの中で、土器片・剥片・貝片・木片が出土したが、それ以上はこれらの遺物の出土はなかった。ところが土壌サンプリングの為、グリッド東壁から西へ70cmの幅をとってスコップにより掘り下げを行なったところ、湧

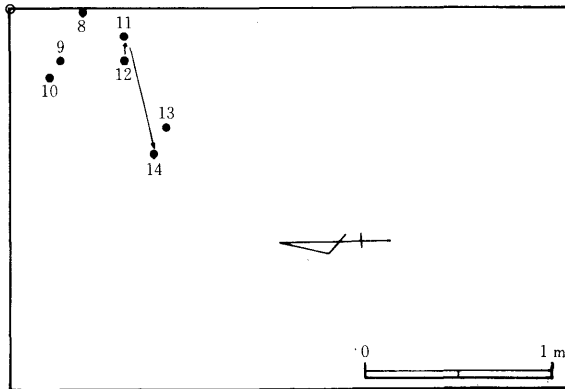


Fig. 11 出土遺物の平面分布図(1グリッド)

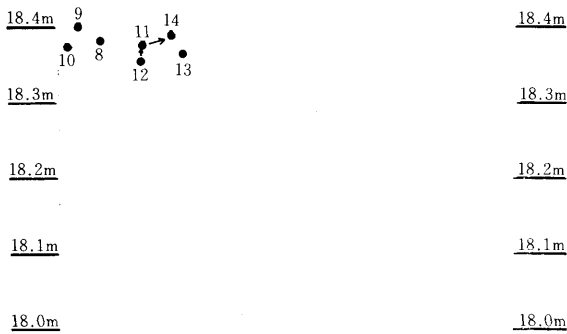


Fig. 12 出土遺物の垂直分布図(1グリッド)

水をみた、第3層上面から深さ0.7~1.5mのところ  
で自然木・木の実が出土した。出土層位は旧(縄文時代)  
河川跡の堆積土内である。

### 2 Grid (A区)

A区南壁の中央に設定した2×2mのグリッドで、  
1グリッドとの距離は最低6.5mある。北西部にのみ  
第3層上部が見られ、外は第2層直下に小礫混じりの  
層が堆積する。これは河川の堆積土と考えられ、この  
上面から約40cmの深さまでの内から水晶製の削器・貝  
片等が出土した。掘削方法は1グリッドと同様である。  
第4層以下では、遺物の出土はなかったが、炭につい  
ては数は少ないものが入ることを確認した。

### 3 Grid (A区)

A区の中央部に設定した2×2mのグリッドで、2  
グリッドの距離は最低2mある。掘削方法は1・2グリ  
ッドと同様である。第3層上面より5~15cmの深さで  
大形の礫が1点出土した。

### 4 Grid (A区)

A区西壁に沿った2×2mのグリッドである。2・3グリッドの土層堆積状況が悪かった  
為、それを補う形で他グリッドの掘削途中で設定した。2・3グリッドとの最短距離は、約  
6mである。第4層までは他グリッド同様の掘削方法で、第5層以下は西壁土壌サンプリ  
ングの為の掘削で西壁から東へ80cmの幅をとってスコップにより掘り下げた。遺物の出土  
はなかった。

## 遺物 (Fig. 15, PL. 5)

縄文土器片、削器・礫・剥片・碎片、貝片がある。出土層位は河川の埋土内のものを除  
き第3層であり、その上面に中心をもつ。

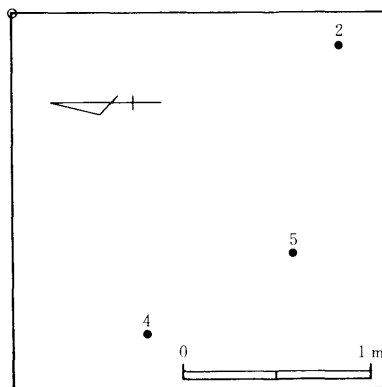


Fig. 13 出土遺物の平面分布図(2グリッド)

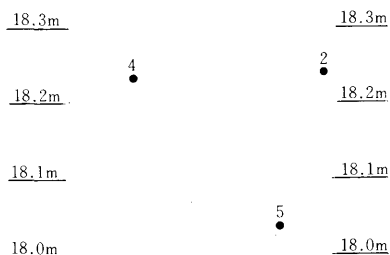


Fig. 14 出土遺物の垂直分布図(2グリッド)



1 Grid では姫島産黒曜石を用いた剥片等を見ていきたい。計 8 点のうち 4 点は微細なものであるのでここでは触れない。11と12は非常に大形のもので、コアブランクとして捉えておきたい。両者とも節理面と考えられる面をもっており、形態も類似する。調製痕も方向をほぼ同じくすることから接合作業を行った結果、欠損による 2 分割が判明した。剥離による分割ではないものの、器種認定に当たり、原形の非常な不定形・不安定さにやや疑問が残るものである。14は片側を欠損するもので、原形は薄手の横長の剥片であろう。打面・打点は欠損により残らない。前述の11・12に接合する。11・12がコアブランクであると見るならば、その調整剥片として認定されるものでであろう。13はやや縦長で厚みのある剥片である。打面・打点は残すが、下端と一側縁は欠損する。背面には原礫面と考えられる面を持つが、これは著しい剥離風化面かもしれない。1 Grid では外に縄文土器片、黒曜石の碎片、貝片があるが、これらはあまりに微細であり、検討にたえない。

2 Grid では河川の埋土内から、削器・碎片・貝片が出土している。2 は水晶製のやや横長の剥片を素材とするもので、二次加工は腹面から緻密に入る。側面に見られる背面からの加工は何らかのアクシデントであろう。腹面上部には剥落痕と考えられる微細な痕を見るが、これはリタッチを入れる際のものか、あるいは使用による際のものという 2 つが考えられる。素材上部は欠損する。

3 Grid では大形の礫のみ、1 点出土した。これは自然の礫である。出土層位は第 3 層からであるが、第 3 層を細分して見た場合、二つの層にわたっての出土である。

4 Grid では掘削中による遺物の出土はない。

ほかに、細石刃?・土師質土器片・陶器片といった遺物が攪乱土中から出土している。このうち18の細石刃?は黒曜石製のもので、両端（上部・下部）を欠損（折断）し、縦長の剥片を素材にしている。細石刃としての認定に躊躇するのは背・腹両面に見られる剥離の方向が一定しないことと、背面側の微細剥離痕の存在である。なお、風化がかなり進んでいる。

### 水洗選別作業検出の遺物

今回、水洗選別作業を行なったグリッドは1・4グリッドであり、対象土層は第 3 層上部を中心に第 3 層全体に、また一部第 4・5 層に及ぶ。1 グリッドについては、包含層の残りの良さと遺物の出土状況を踏まえ対象区とした。4 グリッドは、遺物の出土こそなかったが、包含層の残りの良さから、また 1 Grid との距離・その位置関係を考慮し、対象区

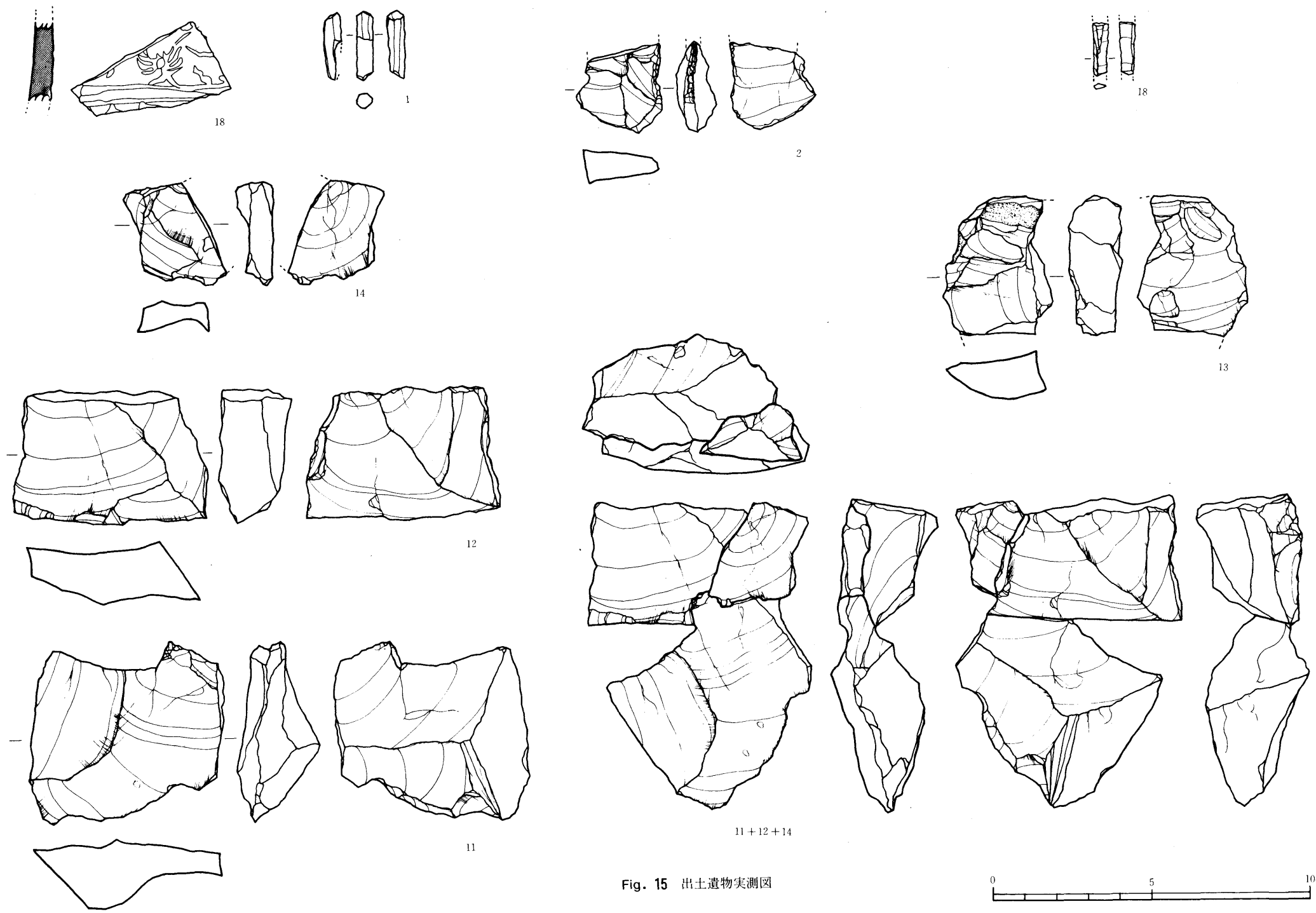


Fig. 15 出土遺物実測図

とした。水洗選別作業の目的は吉田構内において、これまで掘削したことのない層から縄文時代の遺物が初めて出土したことを契機として、遺物の平面的・垂直的な広がりを把握する中の一環として行ない、今回どれほどの微細遺物が包含されているのか、特にその量の把握に主眼を置いた。

その結果、1グリッドでは二次加工のある剥片・加工痕(使用痕)のある碎片・剥片・碎片・炭・貝片・水晶片が検出できた。石器類の石材に関しては、チャート・姫島産黒曜石・水晶がある。4グリッドでは、貝片・炭・水晶片があるが、いわゆる石器類はなかった。また、両グリッドに見られる水晶片は、石器・剥片・碎片に区分できるものではないが、水晶製の石器類が出土していることから、単に石片として片付けられないものもあると考える。両グリッドとも第3層から遺物が検出された訳であるが、層の堆積がよりしっかりしており、出土した遺物も多い1グリッドにおいて検出した微細遺物も多かった。

#### 4 小 結

##### (1) 遺構・遺物について

今回検出した遺構は、土壇3・溝6・柱穴22である。残り具合は非常に悪く、調査面積の割には希薄な残存状況であった。各遺構について時期・性格などを追及でき得る資料はほとんどなかったと言える。また、自然木等を含む旧河川と考えるものについても、検出面積の少なさと、人工遺物の未検出で、その詳細は分からなかった。

当調査区は、北東から延びる<sup>ひめやま</sup>姫山・<sup>いまやま</sup>今山の洪積丘陵地と、<sup>ふしの</sup>榎野川左岸の沖積段丘に在る吉田遺跡のほぼ中央部に位置し、周辺の既往調査から見て、今回の遺構埋存状況は全くの予測外であった。これはもともと足跡のない地域であった可能性はあるものの、残存遺構の状況、さらにその偏り方から見て、ここでは大きく削平を受けた結果であると考えておきたい。しかしながら、その時期・内容・方法についての詳細は不明である。また、旧地形は微妙な起伏をもって存在していた可能性が高い。

今回、縄文時代の遺物包含層を確認したことは大きな成果であった。出土遺物は黒曜石製の剥片等、土器細片・貝片が若干で、出土層位は第3層上面であった。石器に関してはその接合関係から明らかであるが、これらの遺物はその出土層位から同一時期とみなすことができよう。すなわち、当調査区において、第3層上面を中心とした一文化層が確認できた。そして、これらの所属時期についての判断資料として、土器もあるが、細片のため時期を特定することはできなかった。

とした。水洗選別作業の目的は吉田構内において、これまで掘削したことのない層から縄文時代の遺物が初めて出土したことを契機として、遺物の平面的・垂直的な広がりを把握する中の一環として行ない、今回どれほどの微細遺物が包含されているのか、特にその量の把握に主眼を置いた。

その結果、1グリッドでは二次加工のある剥片・加工痕(使用痕)のある碎片・剥片・碎片・炭・貝片・水晶片が検出できた。石器類の石材に関しては、チャート・姫島産黒曜石・水晶がある。4グリッドでは、貝片・炭・水晶片があるが、いわゆる石器類はなかった。また、両グリッドに見られる水晶片は、石器・剥片・碎片に区分できるものではないが、水晶製の石器類が出土していることから、単に石片として片付けられないものもあると考える。両グリッドとも第3層から遺物が検出された訳であるが、層の堆積がよりしっかりしており、出土した遺物も多い1グリッドにおいて検出した微細遺物も多かった。

#### 4 小 結

##### (1) 遺構・遺物について

今回検出した遺構は、土壇3・溝6・柱穴22である。残り具合は非常に悪く、調査面積の割には希薄な残存状況であった。各遺構について時期・性格などを追及でき得る資料はほとんどなかったと言える。また、自然木等を含む旧河川と考えるものについても、検出面積の少なさと、人工遺物の未検出で、その詳細は分からなかった。

当調査区は、北東から延びる<sup>ひめやま</sup>姫山・<sup>いまやま</sup>今山の洪積丘陵地と、<sup>ふしの</sup>榎野川左岸の沖積段丘に在る吉田遺跡のほぼ中央部に位置し、周辺の既往調査から見て、今回の遺構埋存状況は全くの予測外であった。これはもともと足跡のない地域であった可能性はあるものの、残存遺構の状況、さらにその偏り方から見て、ここでは大きく削平を受けた結果であると考えておきたい。しかしながら、その時期・内容・方法についての詳細は不明である。また、旧地形は微妙な起伏をもって存在していた可能性が高い。

今回、縄文時代の遺物包含層を確認したことは大きな成果であった。出土遺物は黒曜石製の剥片等、土器細片・貝片が若干で、出土層位は第3層上面であった。石器に関してはその接合関係から明らかであるが、これらの遺物はその出土層位から同一時期とみなすことができよう。すなわち、当調査区において、第3層上面を中心とした一文化層が確認できた。そして、これらの所属時期についての判断資料として、土器もあるが、細片のため時期を特定することはできなかった。

ただ隣接地の教養部教養複合棟新営に伴う調査（第3章参照）では、この第3層の相当層上面から縄文時代の遺物が多数出土している。土器片については、良好な残り方はしていないが、岩田Ⅳ類・月崎上層Ⅲ式に併行するものと考えられる。実践センター第3層上面出土の遺物は、その層位的事実からこれらに比定でき、よって、その時期は縄文時代晩期中頃と捉えられる。

山口県において、縄文時代の石器を層位的発掘によって検出した遺跡は、ほんのわずかであり、多くが表採・不明といった時間軸にあてはめられないもので、包含層出土のものにしてもその多くはかなりの時間的幅をもっているという状況にある。その意味で今回出土した資料は貴重である。また、県内におけるその体系的な研究を行なう上でも今しばらくの時間は必要となろう。

土層について若干述べておきたい。

実践センター新営予定地内での土層は、造成土・旧耕作土・浅黄色土・赤灰色土・灰オリーブ色土と続く。このうち、第3層目の浅黄色土の最上面で遺物が出土し、縄文時代晩期中頃の一文化層として認識された。また、浅黄色土は、細分が可能な状況にあり、今後の調査を待って検討したい。

吉田遺跡(山口大学構内遺跡)の南西約2kmに位置する小路遺跡<sup>1)</sup>では、小路層と呼ばれる沖積低地の堆積物が確認されている。このうち小路層下部はアカホヤ火山灰に由来する砂質粘土の二次堆積層で、吉田遺跡で見られる、縄文時代晩期中頃の遺物を含む層（第3層）は、これに相当するものと思われる。

アカホヤ火山灰の降下年代は、今から、約6300年前と考えられており、よって、小路層下部はこれ以後、縄文時代晩期中頃（今から2500年くらい前）にかけて堆積したものであろう、との推測が可能である。

第3層のみが、小路遺跡で発表されている砂質粘土の二次堆積層に相当するものかと言えば、そうではなさそうである。教養複合棟区の調査においては、B・C壁のⅥ層（実践センターの第3層）基底面下、約30cmのところにある暗褐色粘質土（C壁のⅨ層）上面から掘り込んでいる落とし穴と考える遺構があり、隣接して検出された河川跡（落とし穴とはほぼ同時期と考えられる）からは、縄文時代晩期の土器片などが多量に出土している。すなわち、暗褐色粘質土（C壁のⅨ層）は一時期にせよ、縄文時代晩期の人々の生活面（地面）であったことになり、小路遺跡で発表された砂質粘土の二次堆積層は、縄文時代晩期中頃の遺物を含む第3層（教養複合棟区の調査ではB・C壁のⅥ層）以下、少なくとも、教養

## 埋蔵文化財遺存状況と今後の方針

複合棟区の調査でのC壁のⅨ層までの範囲を示すことになる。このように縄文時代晩期中頃に砂質粘土の二次堆積層の活動が行なわれたと考えられるが、果してこれが、その二次堆積活動の全てなのか、あるいは、断続的な活動のうちの一サイクルなのかは判断できず、小路層下部の始源は教養複合棟区の調査でのC壁で見るとすれば、Ⅸ層以下に求められる可能性も出てくる。

また、土層の色調・性質は教養複合棟区の調査でのB・C壁のⅥ層（実践センターの第3層）と教養複合棟区でのC壁のⅨ層では、大きく異なっており、これを同一層としては捉え難く、環境なり何らかの変化がここに求められるのではないだろうか。

なお、当調査では土壌のサンプリングを行っており、現在、花粉分析中である。また、植物遺体の分析から、当期の環境を推察いただいている（付篇Ⅰ 山口大学構内出土の植物遺体）。今後とも学際的研究による古環境の解明に全力を注ぎたい。

### (2) 埋蔵文化財遺存状況と今後の方針

当調査区では、削平の度合いが大きいと考えられ、遺構の残り具合が非常に悪かった。この結果をもとに調査終了後の取扱いについて、埋蔵文化財資料館運営委員会では工事に際して特に支障はない、との結論が出された。

当調査区は「遺跡保存地区」に近く、遺構の集中する範囲内と予想されたが、結果は全くその逆であった。これは削平の有無もあるだろうが、そればかりの問題とも言い切れず、多くの問題が残されたというのが実情である。周辺地域では今後まず、綿密な試掘調査が必要となるもので、さらに縄文時代晩期中頃以前の相当層は削平の手を免れており、この層以下では特に注意を払う必要がある。

〔注〕

- 1) 松尾征二 「小路遺跡周辺の第四系」『小路遺跡』（山口市埋蔵文化財調査報告第27集、山口市教育委員会、1988年）

Tab. 2 出土遺物観察表

実践センター(1)

No	器種	石材	出土位置 (Grid)	出土層位	北→南 (cm)	東→西 (cm)	出土高 (m)	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	打面の形状		原礫面の有無	接合関係	備考		
												形態	傾き					
1	管	玉滑石	暗渠 (SD4)	埋土				2.1	0.5	0.5	0.6						未製品か	
2	削器	水晶	2 G	河川埋土	172.0	17.5	18.240	2.8	2.7	1.1	8.2							
3	貝片		2 G	河川埋土	94.2	179.0	18.170											
4	砕片	水晶	2 G	河川埋土	71.0	170.2	18.231				0.01							
5	砕片	水晶	2 G	河川埋土	147.2	128.2	18.037				0.01							
6	礫	安山岩	3 G	2・3	272.0~ 285.0	84.0~ 101.0	上18.244 下18.154											自然礫
7	砕片	姫島産黒曜石	1 G	3				1.7	0.5	0.2	0.1							
8	砕片	姫島産黒曜石	1 G	3	38.7	0	18.374				0.01							
9	砕片	姫島産黒曜石	1 G	3	27.0	27.2	18.393				0.01							
10	砕片	姫島産黒曜石	1 G	3	21.7	36.0	18.367	0.8	0.3	0.1	0.02							
11	コアブランク	姫島産黒曜石	1 G	3	62.0	16.0	上18.392 下18.367	5.6	5.1	2.1	61.8					12・14		
12	コアブランク	姫島産黒曜石	1 G	3	62.3	23.5	上18.387 下18.349	4.2	6.1	1.9	55.2					11・14		
13	剥片	姫島産黒曜石	1 G	3	83.1	62.3	上18.372 下18.356	4.3	3.4	1.5	23.4	平坦	腹面へ約45°	○				
14	剥片	姫島産黒曜石	1 G	3	77.5	76.2	上18.393 下18.381	3.2	3.2	1.0	7.0					11・12		
15	貝片		1 G	3	67.0	188.5	18.094	0.7	0.5	0.1								
16	砕片	黒曜石	1 G	3							0.03							
17	砕片	水晶 (石英)	2 G	不明				0.4	0.2	0.1	0.01							
18	細石刃?	黒曜石	攪乱地					1.6	0.5	0.15	0.1							

No	器器 種形	出土位置	出土層位	胎 土						色 調		残存程度	形態・成形・調整等の特徴			
				石	英	長	石	角閃石	雲	母	砂			礫	その他	外面(素地)
1	瓦	暗渠 (SD 2)	埋土内	極小 a								オリブ黒色 (7.5Y 3/2)	オリブ灰色 (2.5GY 6/1)	不明	ヨコナデ。	
2	土師質土器 甕形土器	暗渠 (SD 2)	埋土内	極小 c	極小 b							淡黄色 (2.5Y 8/3)	浅黄色 (2.5Y 7/3)	不明	内面に同心凹文。肥料だめ用の甕。近世。	
3	欠															
4	瓦	暗渠 (SD 2)	埋土内	極小 a								灰色 (10Y 4/1)	灰白色 (5Y 7/2)	不明		
5	瓦質土器	暗渠 (SD 2)	埋土内	極小 d	極小 b							灰オリブ色 (5Y 6/2)	灰白色 (2.5Y 8/2)	不明	片面にヨコナデ。	
6	瓦	暗渠 (SD)	埋土内	極小 a								灰色 (7.5Y 4/1)	灰色 (7.5 6/1)	不明		
7	磁器	暗渠 (SD 2)	埋土内									(淡黄色) (5Y 8/3)	(透明)	不明	口縁部片。内・外面に貫入。	
8	磁器	暗渠 (SD 2)	埋土内									(灰白色) (7.5Y 8/2)	(緑がかった透明)	不明	内面のみ釉・貫入。	
9	磁器	暗渠 (SD 2)	埋土内									明オリブ灰色 (5GY 7/1)	(青色)	不明	内・外面釉、貫入なし。	
10	磁器	暗渠 (SD 2)	埋土内									淡黄色 (5Y 8/3)	(透明)	不明	内・外面貫入。	
11	須恵器 蓋	暗渠 (SD 2)	埋土内									灰色 (7.5Y 6/1)	灰色 (7.5Y 6/1)	不明	内・外面とも回転ユビナデ。	
12	瓦	暗渠 (SD 2)	埋土内	極小 a								極小 a		不明		
13	瓦質土器	暗渠 (SD 4)	埋土内	極小 c ~ 小 a								極小 a	灰色 (10Y 5/1)	不明	内・外面ともナデ。	
14	須恵器	暗渠 (SD 4)	埋土内	極小 c									緑灰色 (7.5GY 6/1)	緑灰色 (10GY 5/1)	不明	内・外面とも回転ユビナデ。
15	瓦質土器	暗渠 (SD 4)	埋土内										灰色 (10Y 4/1)	灰色 (10Y 4/1)	不明	内面ヨコナデ。工具による可能性あり。
16	陶器	暗渠 (SD 4)	埋土内										にぶい黄色 (2.5Y 6/3)	浅黄色 (2.5Y 7/3)	不明	風化の為、素地の色調はよく分らない。内・外面に施釉あるが発色は不良であり、光沢はない。貫入なし。
17	陶器	暗渠 (SD 4)	埋土内										(にぶい黄橙色) (10YR 7/3)	(茶がかった透明)	不明	内・外面に施釉、貫入あり。
18	陶器	暗渠 (SD 4)	埋土内									極小 a	(にぶい橙色) (2.5YR 6/3)	(灰色がかった透明)	不明	外面に工具による2条の沈線と菊花文。内外面に施釉、貫入あり。
19	磁器	暗渠 (SD 4)	埋土内										(灰白色) (10Y 8/1)	(透明) 施文-(鮮青色)	不明	染付。内・外面に文様、施釉。貫入はない。



No	器 器 種 形	出土位置	出土層位	胎 土						色 調		残存程度	形態・成形・調整等の特徴
				石 英	長 石	角閃石	雲 母	砂 礫	その他	外面(素地)	内面(釉)		
20	磁 器	暗 渠 (SD 4)	埋土内							(灰白色) (2.5GY 8/1)	(透明) 施文-(鮮青色)	不 明	染付。内面にのみ文様。内・外面に施釉、貫入なし。
21	磁 器	暗 渠 (SD 4)	埋土内							(灰白色) (10Y 7/1)	(灰色がかった透明)	不 明	外面に施釉、内面には一部施釉、貫入なし。
22	磁 器	暗 渠 (SD 4)	埋土内						極 小 a	(淡黄色) (5 Y 8/3)	(透明) 施文-(鮮青色)	不 明	染付。外面に文様あり。内・外面に施釉、貫入あり。
23	磁 器	暗 渠 (SD 4)	埋土内							(灰白色) (5 Y 7/1)	(灰白色) (5 Y 8/1)	不 明	内・外面に施釉、貫入はない。釉は発色はなく光沢もみられない。
24	弥生土器	暗渠 (SD 4)	埋土内	極 小 c	極 小 c					淡橙色 (5 Y 8/3)	灰 色 (10 Y 4/1)	不 明	
25	磁 器	暗 渠 (SD 6)	埋土内							(淡黄色) (2.5 Y 8/4)	内面(黄がかった透明) 外面(口縁部含む) (青がかった透明)	不 明	口縁部片。外面にヨコナテ顕著。内・外面に施釉、貫入はない 内・外面では釉色が異なる。
26	磁 器	暗 渠 (SD 6)	埋土内							(灰白色) (10 Y 8/1)	内面(青がかった透明) 外面(緑がかった透明)	不 明	内・外面に施釉するが、色調は異なる。貫入と考えられるひび割れが内・外面に走る。
27	磁 器	暗 渠 (SD 6)	埋土内							(灰白色) (7.5 Y 8/1)	おそらく外面に なると思われる (鮮青色)	不 明	貫入はない。
28	土師質土器	B区	1	極 小 b	極 小 a					灰 色 (10 Y 6/1)	灰白色 (2.5 Y 8/2)	不 明	
29	不 明	B区	1	極 小 a								不 明	
30	陶 器	B区	1						極 小 a	にぶい黄橙色 (10 Y R 6/3)	にぶい黄橙色 (10 Y R 6/3)	不 明	
31	陶 器	B区	1							(浅黄褐色) (10 Y R 8/3)	(透明)	不 明	外面のみ施釉、貫入あり。
32	縄文土器	C区	3						極 小 b	にぶい黄褐色 (10 Y R 5/4)	にぶい黄褐色 (10 Y R 5/4)	不 明	風化著しく小破片の為、表裏の区別、部位も不明。胎土にはあまり不純物を含まない。
33	陶 器	A区	表 採	極 小 a						(灰 色) (N 6/0)	内面(灰赤色) 外面(灰赤色)	不 明	内・外面に施釉するが、発色が不良であり、光沢がない。

※ 空白欄は該当事項のないもの。但し、法量については石器類では計測不可能なものの意味。

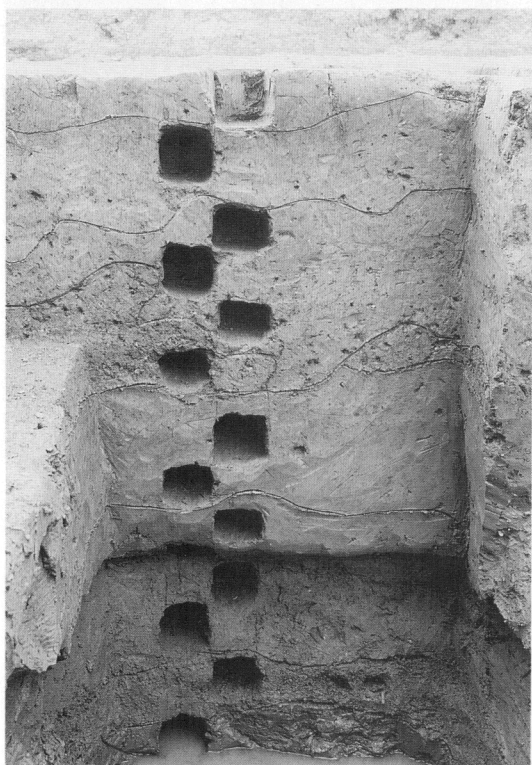
※ 土器の胎土については、含まれる粒の大きさを、農林省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』(1976)に処って、便宜的に分類した。

極小一径1mm以下

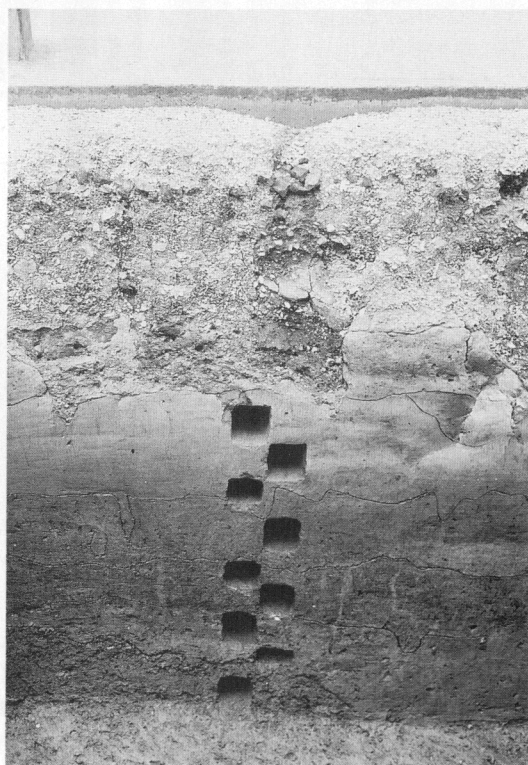
小一径1~2mmで、各々4段階、細かい方から順にa、b…とした。



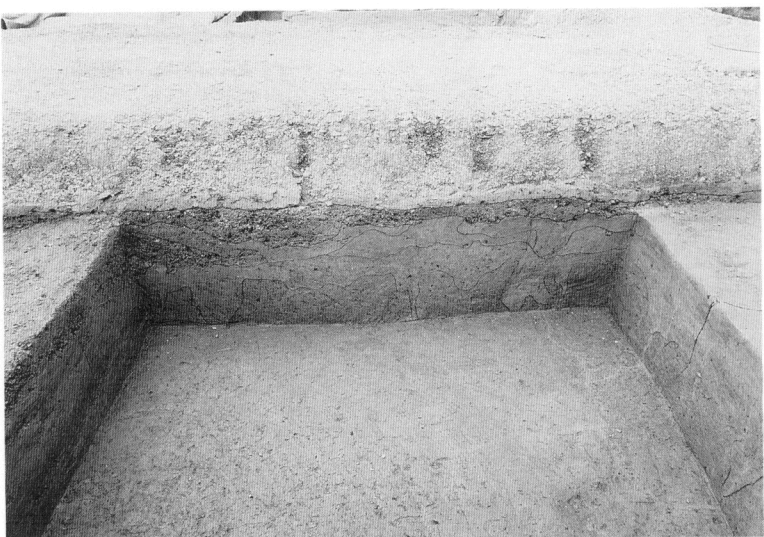
(1) 調査区全景(東から)



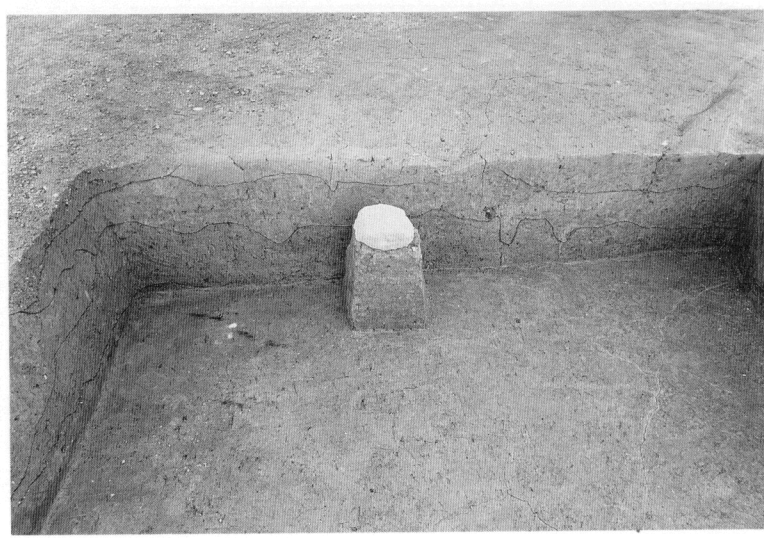
(2) 1グリッド北壁土層断面(南から)



(3) 4グリッド西壁土層断面(東から)



(1) 2グリッド南壁土層断面(北から)



(2) 3グリッド南壁土層断面(北から)



(3) 1グリッド遺物出土状況全景(東から)



(4) 1グリッド遺物出土状況(南から)

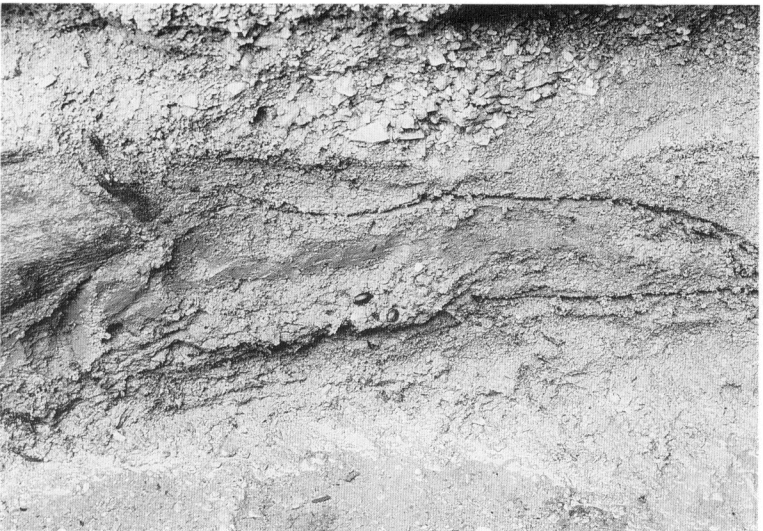
吉田構内教育字部附属教育実践研究指導センター新営に伴う発掘調査(3)



(1) 1グリッド植物遺体出土状況(西から)



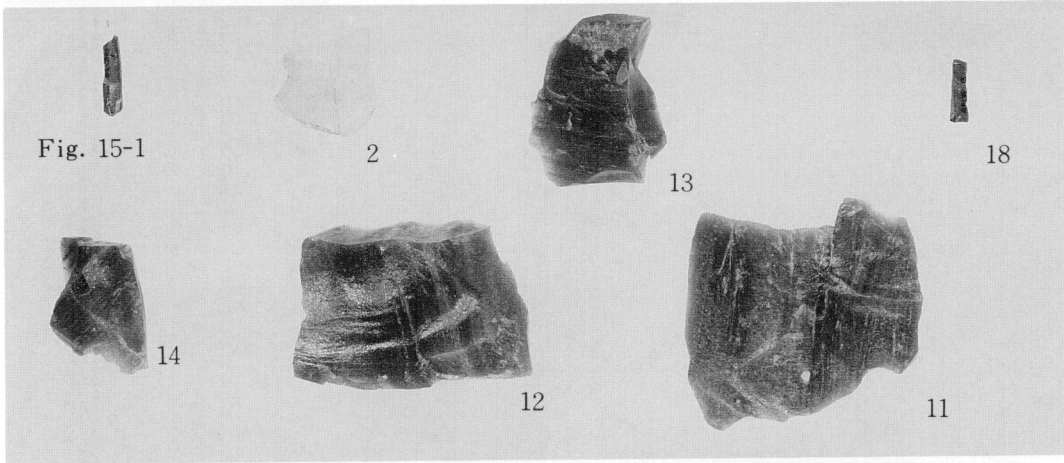
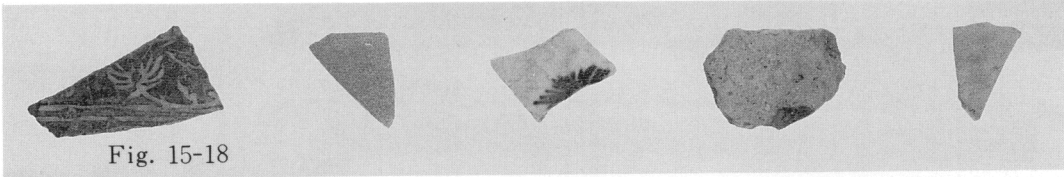
(2) 1グリッド植物遺体出土状況(西から)



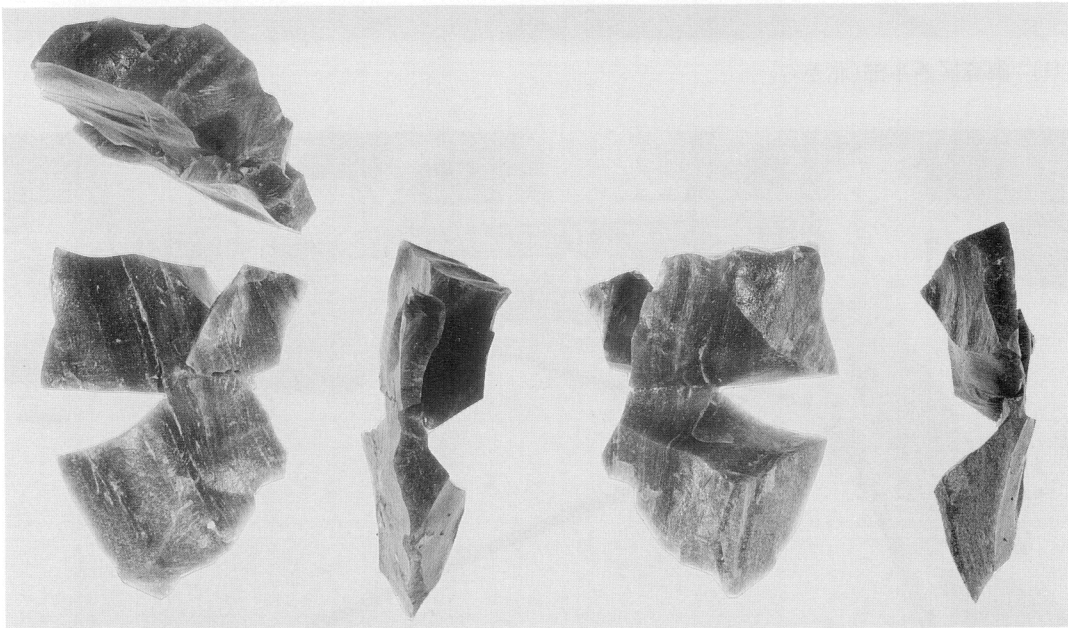
(3) 1グリッド植物遺体出土状況(西から)



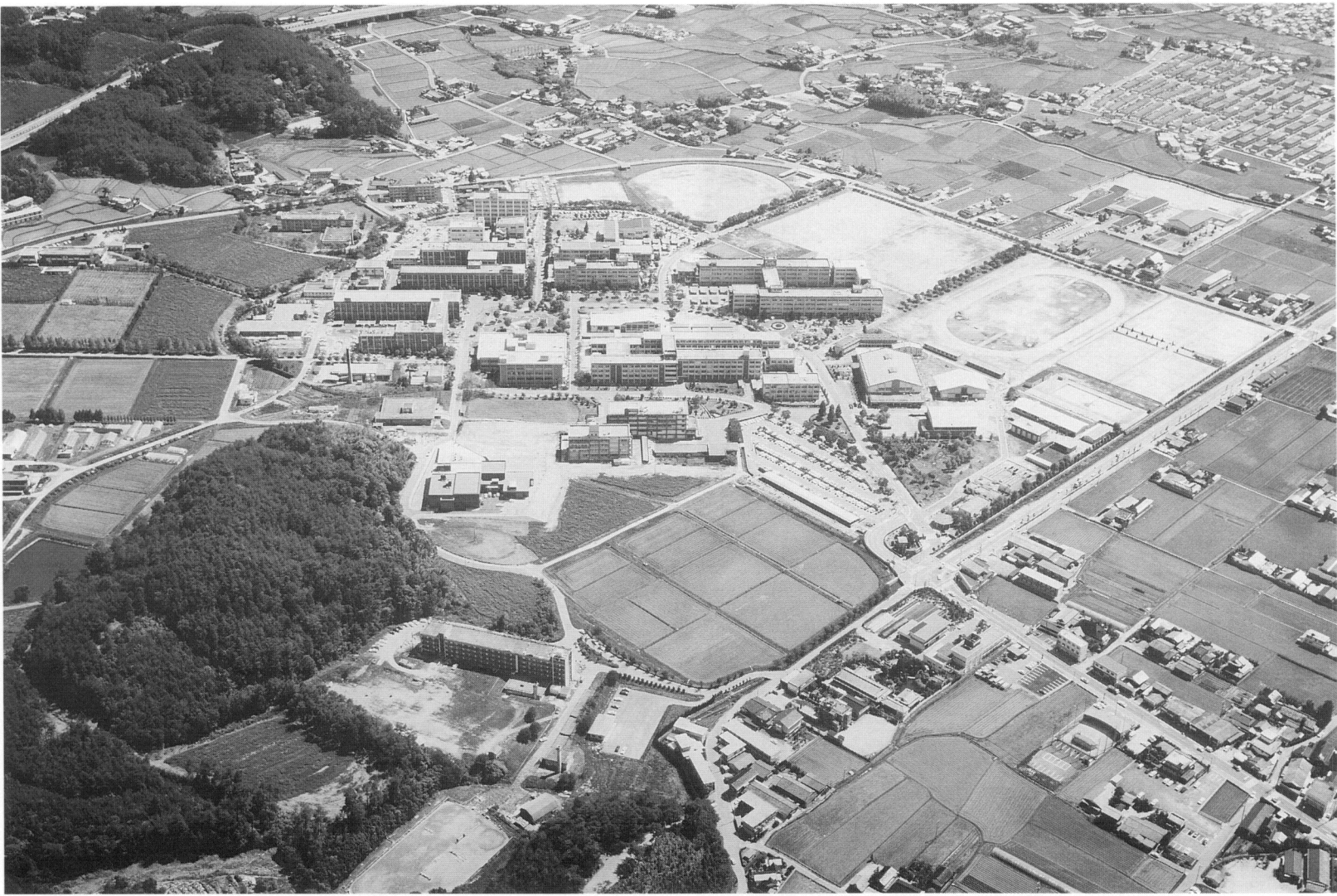
(4) 調査風景



(1) 出土遺物



(2) 接合資料(11+12+14)



吉田構内全景 (北西から)